

2015年度助成分

■講演会等の名称

医療と法ネットワーク第5回フォーラム
「動き出す医療事故調査制度」

研究代表者：

位田 隆一（一般財団法人比較法研究センター理事、「医療と法ネットワーク」運営委員）

主催団体名/代表者名：

一般財団法人比較法研究センター「医療と法ネットワーク」
/運営委員長 永田眞三郎

主な講演者名：

山本和彦（一橋大学大学院法学研究科 教授）、樋口範雄（東京大学大学院法学政治学研究科教授）、
木村壯介（一般社団法人日本医療安全調査機構 常務理事）、長尾能雅（名古屋大学医学部附属病院 副病院長、
医療の質・安全管理部教授）等

会場名：

京都大学医学部創立百周年記念施設 芝蘭会館 稲盛ホール

開催日：2015年11月29日13時00分～17時00分

【講演会等の内容】

医師、看護師、弁護士、大学研究者等約140名の参加を得て開催した（なお、申込み総数は166名）。プログラム前半は、①山本和彦氏（一橋大学大学院法学研究科 教授）から医療事故調査制度の概要の説明、②木村壯介氏（一般社団法人日本医療安全調査機構 常務理事）から医療事故調査・支援センターの役割について、③長尾能雅氏（名古屋大学医学部附属病院 副病院長、医療の質・安全管理部教授）から名古屋大学での取り組みについて、それぞれ講演がなされた。プログラム後半の④パネル・ディスカッションは、コーディネーターを石川寛俊氏（弁護士）が務め、パネリストとして、講演者の3名に加え、樋口範雄氏（東京大学教授、日本医療安全調査機構 医療事故調査・支援事業運営委員長）、岡本左和子氏（奈良県立医科大学 健康政策医学講座講師）、勝村久司氏（患者の視点で医療安全を考える連絡協議会 世話人）が登壇した。ディスカッションでは、参加者からの質問を(1)課題その1「医療事故かどうかは、誰がどのように判断するのか」、(2)課題その2「中立、公正、透明な調査をどのように行うか」、(3)課題その3「遺族への報告、説明は十分になされるか」、(4)「その他、制度全般」の4つに分類して討論を行った。

参加者からは、プログラム前半の講演について、医療事故調査制度が始まって約2か月経過した時期の開催ということもあり、「医療事故調査制度の最新情報を知ることができた」、「医療安全管理の先進的な取り組みを知ることができた」という感想が寄せられた。また、プログラム後半のパネル・ディスカッションについては、「多様な問題についてバランスよく取り上げられており、理解が深まった」「パネリストの先生から具体的な回答をお聞きすることができてよかった。パネリストに医療者、弁護士以外の方が含まれており、メンバーが良かったと思う」「患者、遺族の意見、考え方がよくわかった。自院の医療安全の取組みがまだ十分とは言えないことを感じたので、これをきっかけに院内に広めていきたい」という感想が寄せられた。今後も引き続き他の関連分野の専門家と協働し、より良い医療関連制度構築に向けた研究を続けていく所存である。

■講演会等の名称

第17回世界経済史会議

研究代表者：

岡崎哲二 (東京大学大学院経済学研究科・教授)

主催団体名/代表者名：

WEHC 2015 国内組織委員会/委員長 岡崎哲二

主な講演者名：

Pranab BARDHAN, Department of Economics, University of California, Berkeley, USA, Professor

Roy Bin WONG, Department of History, University of California, Los Angeles, USA, Professor

Linda GROVE, Sophia University, Professor Emeritus

会場名：

国立京都国際会館

開催日：2015年8月5日9時00分～18時45分

【講演会等の内容】

8月5日の講演会は、8月3日～7日の計5日間にわたって行われた第17回世界経済史会議の一連のセッションの中の一日に該当し、Parallel Sessions は 9:00～12:30と13:30～17:00に、各18セッション、Plenary Session は 17:15～18:45に行われた。IEHAの総会がその後引き続いて執り行われた。

プレナリー・セッションでは、当大会の共通テーマである“Diversity of Development”を踏まえ、経済発展の多様性についての鋭い洞察を含むものであり、また、経済史を経済学的に考察し、経済史から経済学を再考するという主催者側の意図が十分に反映された成果となった。このプレナリー・セッションを通じて、世界中から集まった経済史研究者に、大会開催の意図を発信することができたと考えている。1960年に始まる半世紀以上の世界経済史会議の歴史の中で、アジアで開催されるのは今回が初めてであり、今回の世界経済史会議の成功が、経済史研究のグローバルな発展と深化に貢献をすることができたと自負している。

本大会は、アジアで初めて行われた経済史関係の大規模な国際会議であり、日本からの参加者もこれまでで最大であった。この大会を一つの契機として盛り上がったグローバルな経済史研究の発展への日本、およびアジアの研究者の発信および国際交流が継続的なものとなるように、国内の経済史・経営史関係の諸学会、および大学を中心とする諸研究機関が取り組みをより強化し、持続的な活動基盤を構築していくことが、今後の大きな課題と考えている。